

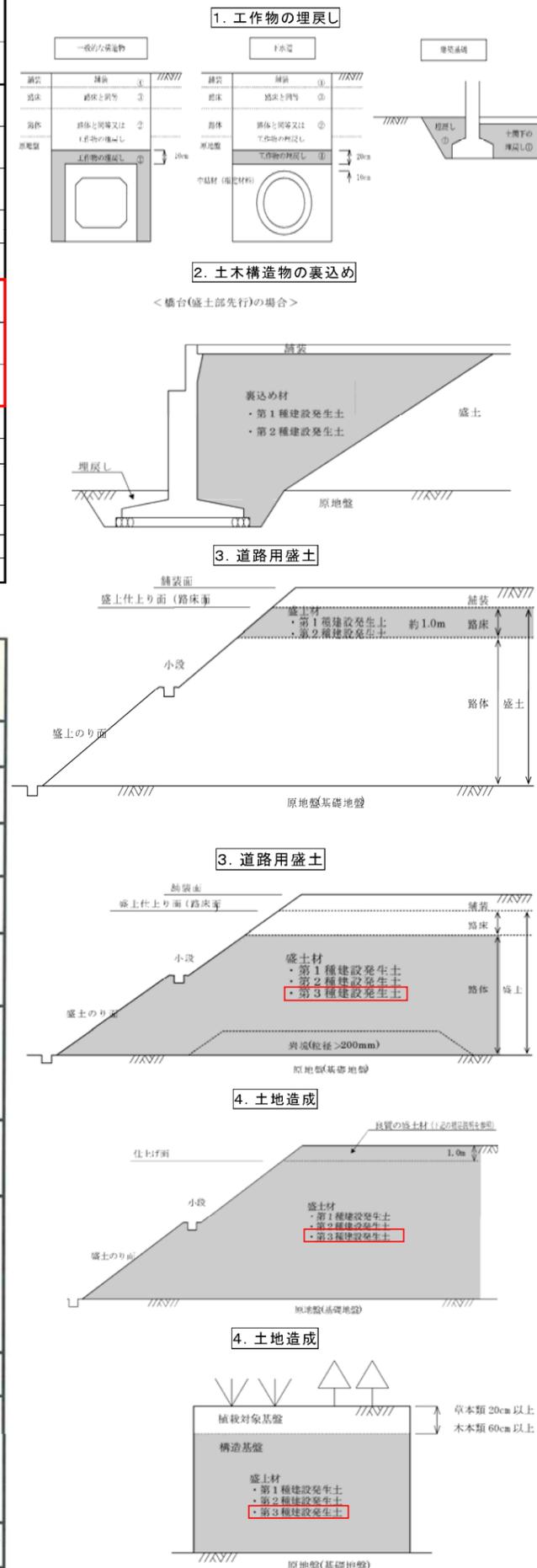
# 適用用途標準

区分	適用用途	工作物の埋戻し		建築物の埋戻し <sup>※1</sup>		土木構造物の裏込め		道路用盛土			
		評価	留意事項	評価	留意事項	評価	留意事項	路床		路体	
								評価	留意事項	評価	留意事項
第1種建設発生土	第1種	◎	最大粒径注意 粒度分布注意	◎	最大粒径注意 粒度分布注意	◎	最大粒径注意 粒度分布注意	◎	◎	◎	◎
	第1種改良土	◎	最大粒径注意	◎	最大粒径注意	◎	最大粒径注意	◎	◎	◎	◎
第2種建設発生土	第2a種	◎	最大粒径注意 細粒分含有率注意	◎	最大粒径注意 細粒分含有率注意	◎	最大粒径注意 細粒分含有率注意	◎	◎	◎	◎
	第2b種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第3種建設発生土	第3a種	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第3b種	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第3種改良土	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第4種建設発生土	第4a種	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第4b種	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
泥土	粘土a	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土b	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土c	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

区分	適用用途	河川築堤		土地造成		鉄道盛土		空港盛土		水面埋立 <sup>※2</sup>	
		評価	留意事項	評価	留意事項	評価	留意事項	評価	留意事項	評価	留意事項
第1種建設発生土	第1種	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第1種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第2種建設発生土	第2a種	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第2b種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第3種建設発生土	第3a種	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第3b種	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第3種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第4種建設発生土	第4a種	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第4b種改良土	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
泥土	粘土a	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土b	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土c	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

区分	適用用途	鉄道盛土		空港盛土		水面埋立 <sup>※2</sup>	
		評価	留意事項	評価	留意事項	評価	留意事項
第1種建設発生土	第1種	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第1種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第2種建設発生土	第2a種	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第2b種改良土	◎	◎	◎	◎	◎	◎
第3種建設発生土	第3a種	○	◎	◎	◎	◎	◎
	第3b種	○	◎	◎	◎	◎	◎
	第3種改良土	○	◎	◎	◎	◎	◎
第4種建設発生土	第4a種	○	◎	◎	◎	◎	◎
	第4b種改良土	△	◎	◎	◎	◎	◎
泥土	粘土a	△	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土b	△	◎	◎	◎	◎	◎
	粘土c	×	◎	◎	◎	◎	◎

# 建設発生土の利用形態模式図



# 建設発生土の利用用途ごとの要求品質

用途	工作物の埋戻し	建築物の埋戻し	土木構造物の裏込め	道路用盛土		河川築堤		土地造成		鉄道盛土	空港盛土	水面埋立		
				路床	路体	高規格堤防	一般堤防	宅地造成	公園・緑地造成					
材料規定	最大粒径	50mm以下	100mm以下	(100mm以下)	—	—	100mm以下	(150mm以下)	100mm以下 (転石300mm以下)	—	—	—		
	粒度	F <sub>c</sub> ≤ 25%	—	(細粒分以下 ≥ 25%) (F <sub>c</sub> ≤ 25%)	—	—	φ 37.5mm以上の混入率40%以下	(F <sub>c</sub> = 15~50%)	φ 37.5mm以上の混入率40%以下	—	—	—		
	コンシステンシー	—	—	(PI ≤ 10)	—	—	—	—	—	—	—	—		
	強度	規定のCBR以上	通常の施工性が確保できるもの	圧縮性の小さい材料	規定のCBR以上	—	qc ≥ 400kN/m <sup>2</sup>	—	qc ≥ 400kN/m <sup>2</sup> 場合により qc ≥ 200kN/m <sup>2</sup>	—	—	—		
用途ごとの要求品質	施行管理規定	施工含水比	監督員の指示	—	最適含水比とD <sub>c</sub> 90%の得られる湿潤側の含水比の範囲	最適含水比とD <sub>c</sub> 90%の得られる湿潤側の含水比の範囲	最適含水比とD <sub>c</sub> 90%の得られる湿潤側の含水比の範囲	最適含水比より湿潤側で、規定の乾燥密度が得られる範囲	D <sub>c</sub> ≥ 90%の締固め度で得られる湿潤側の含水比の範囲	最適含水比に近い状態	—	D <sub>c</sub> ≥ 90%以上が得られる範囲	最適含水比付近	
		締固め度	D <sub>c</sub> ≥ 90%	—	D <sub>c</sub> ≥ 90~95%	D <sub>c</sub> ≥ 90~95%	D <sub>c</sub> ≥ 90%	RI計器: 締固め度平均値 D <sub>c</sub> ≥ 90% 砂置換法: 締固め度最低値 D <sub>c</sub> ≥ 85%	平均締固め度: D <sub>c</sub> ≥ 90% 締固め度品質下限値: D <sub>c</sub> ≥ 80%	RI計器: D <sub>c</sub> ≥ 87% 砂置換法: D <sub>c</sub> ≥ 85%	—	D <sub>c</sub> ≥ 90~95%	90%以上	
		空気間隙率または飽和度	—	—	—	—	粘性土 Va ≤ 10% Sr ≥ 85% 砂質土 Va ≤ 15%	粘性土 Va ≤ 10% Sr = 85~95% 砂質土 Va ≤ 15%	粘性土 Va ≤ 10% Sr = 85~95% 砂質土 Va ≤ 15%	RI計器: Va ≤ 13% 砂置換法: Va ≤ 15%	—	粘性土 Va ≤ 10~15%	Sr = 85~95% Va = 1~10%	
		1層の仕上り厚さ	30cm 路床部 20cm以下	30cm以下	20cm以下	20cm以下	30cm以下	30cm以下	30cm以下	30cm以下	まき出し厚さ 30~50cm	—	30cm程度	一般的な土工: 30cm以下 空港高盛土等: 試験施行の成果を設計・施行に反映させるものとし、まきだし厚さ、土砂: 10~50cm、軟岩: 30~50cm、硬岩: 最大粒径の1.5倍程度ただし1mm以下
		その他	—	—	—	—	—	—	qc ≥ 400kN/m <sup>2</sup>	—	—	—	—	—
		基準等	建設省: 「建設省総合技術開発プロジェクト 建設事業への廃棄物利用技術の開発 概要報告書」, 昭和61年11月	社団法人公共建築協会: 「公共建築工事標準仕様書平成16年版」, 平成16年3月 「建築工事監理指針平成16年度版」, 平成17年3月	社団法人日本道路協会: 「道路土工-施工指針 改訂版」, 昭和61年11月	社団法人日本道路協会: 「道路土工-施工指針 改訂版」, 昭和61年11月	社団法人日本道路協会: 「道路土工-施工指針 改訂版」, 昭和61年11月	財団法人リバーフロント整備センター: 「高規格堤防盛土設計・施工マニュアル」, 平成12年3月	財団法人国土開発技術センター: 「河川土工マニュアル」, 平成5年6月	都市基盤整備公団: 「工事共通仕様書」, 平成12年9月	運輸省鉄道局監修 建設省総合研究所編 鉄道構造物等設計標準・同解説 土構造物 平成4年10月	財団法人港湾空港建設技術サービスセンター: 「空港土工工事共通仕様書」, 平成16年4月 「空港土木施設工要領」, 平成11年9月	社団法人日本港湾協会: 港湾の施設の技術上の基準・同解説	
備考	施設等の特性により必要な諸元を選定する													

※ 実際の適用にあたっては、利用側で定められている諸基準等に従うこと。なお、RI計器とは、放射性同位元素 (radioisotope, RI) を利用して土の湿潤密度および含水量を測定するための計器である。  
凡例 F<sub>c</sub>: 細粒分含有率 PI: 粘性指数 qc: コーン指数 D<sub>c</sub>: 締固め度 D<sub>c</sub>: 平均締固め度 Va: 空気間隙率 Sr: 飽和度 —: 特に規定なし () : 望ましい値